



自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念に変更して、全体会議で周知・掲示しています。	基本理念と地域との関わりが追記された運営方針がホーム内の要所に掲げられ、ホーム長を中心に共有が図られている。言葉に表せない利用者の想いに応えたり、職員の笑顔がホーム内で暮らす利用者の笑顔に変わる事で理念の趣旨を感じている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃活動や催し物へ参加しています。	町内の班長として総会や会議に出席し、ホームの広報に努め、地域との信頼関係づくりの役割を担っている。職員も近隣との関わりを積極的に行い、清掃作業への参加や利用者や散歩の時に挨拶を交わしている。行事の参加や訓練時の協力もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月に地域の3箇所のグループホームで認知症の勉強会を御家族や地域の人々に講演会を開催しています。また、社会福祉協議会・地域包括支援センターとも連携をとり福祉施設について意見交換会を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、入居者様の日常生活の様子や活動状況等を報告しご意見を伺っています。	運営推進会議は定例開催され、利用者・地域包括支援センター・町内役員・知見者等が参加し、活動報告や意見交換が行われサービスの質の向上に活かしている。研修状況や事故報告も明確にし、開かれたグループホームを目指し意見を求めている。	開催後の議事録も整理され、報告内容や会議での意見や、それについての返答も明確に記載されている。今後は会議活性化の為に、会議の意義や内容を理解して頂けるように、欠席の利用者家族にも報告し情報が共有できる取り組みが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	旭川市担当者とは、入居状況の問い合わせや事故報告、不明事項の確認を行ったりしています。	運営推進会議へ行政担当者が参加できる仕組みが出来、地域の実情や行政からの情報が得られている。行政窓口には相談や問い合わせ、介護保険の更新申請代行もしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について委員会を設置し、本年度は2回開催しています。身体拘束について重大な事故につながるような状況時は、ご家族に身体拘束廃止の取り組みを伝え同意を得て安全策を講じています。	身体拘束廃止のマニュアルを作成し、毎年研修を行い正しい理解でケアに取り組んでいる。拘束虐待防止委員会に加入し、テレビ会議に参加する事で研修を重ねている。玄関の施錠・日常の拘束もなく車いすからの適宜移乗も行っている。止むなく手すりを使用している方は、家族と相談・検討しケアプランに記載、転倒予防として検証も続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても委員会を設置し、本年度は2回開催をしています。マニュアルはいつでも閲覧できるようにしています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域開催の権利擁護や成年後見制度についての研修会の案内を職員全員に回覧してします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際は、書面をもとに読み上げて内容を説明し御理解をいただけるように時間とっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の発言や行動の変化などその都度対応して、毎月のミーティングでケアプランに載せたり、御家族の面会時には普段の様子をお伝えして御意見を伺えるようにしています。	家族の来訪時には、気兼ねなく話ができるような雰囲気づくりに努めている。毎月発行される通信には、日常の様子が写真で伝えられ、今後は個別のお便りも検討している。ホームでは独自にアンケートを実施し、要望に応えられる取り組みもしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議を開催し、8月には全体会議を開催しています。	年2回の全体会議と月1回開催されるユニット会議では、管理者、計画作成者を中心に利用者の状況報告や、気付き・課題を明確にし、職員からの意見を大切に扱い、ホームの運営や利用者のケアの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季(6月)と冬季(11月)に人事考課を行い個別面談を行い勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修や入社1年研修、管理者研修等スタッフの状況に応じて研修をいけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域のグループホームと協働の普通救命講習会を開催したり、当法人内のグループホームの職員との交流を目的とした学びの会にも参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様の表情の他、立ち上がったたり立ち止まっていたりする時には声をかけて誘導したり、食事や水分補給、レクリエーション時にも他の入居者様との仲を取り持つようになっています。特に歌を唄う事が好評でした。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、自宅訪問して困っている事や継続してほしいこと、気をつける点などを伺い、入居後も面会に来ていただいて要望を受けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとっては「初めての所」であるので、言動に注意してその時々での対応をして、ご家族の協力を得て自宅で飼っている犬を連れてきていただいたりしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体操や歩行運動、歯磨きの声掛けなど入居者様同士で誘って一緒に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、普段の様子をお伝えして本人と家族の時間を作った後に今後のケアについて話をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご家族と一緒に美容室に通われています。また、デイサービスを利用されていた時のお友達も遊びに来られています。	以前の生活環境や馴染みの関係を大切にしたい支援を心掛け、家族、友人、知人の面会も多く、ゆっくり話ができる環境づくりを心がけている。家族と墓参りや一緒に温泉で過ごす支援、部屋に置かれた仏壇の水やお花のセッティングも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの行動を見守り、洗濯物干しやたたむ等を一緒にしてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成20年に退去された方が、年に2回ほど遊びに来られ昼食を一緒に召し上がっていただいています。11月26日に来館します。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや考えについてはその都度対応していますが、情報の蓄積までは至っていません。	職員は家族からの聞き取りや日常の関わりのなかで、利用者の希望、意向を把握するように努めている。センター方式の活用でより細かな情報収集に努め、利用者本位のケアに向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の様式を一部利用して過去の生活の様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に状況を残し、ミーティングで情報を集約して把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規入居時には、2週間の介護計画を立てますが、その後もご家族と話をししてスタッフからの情報でケアの内容を再検討して1ヶ月の計画を立て直しています。その後は状況に応じて安定していれば3ヵ月後と見直しをしています。	利用者、家族の意向を尊重し、職員の日常の気づきを反映させた介護計画を作成している。介護計画の目標を毎月担当者が業務日誌に記載する事で利用者ひとり一人の目標を明確にし、職員が状態を記録する事により、目標の達成状況が毎日確認できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に様子を記載して、記録を基にケアの継続(申し送り)を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夏祭りを通してディサービス利用者との交流の機会があります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りや清掃活動、芸能発表会、保育園のお遊戯会・餅つきなどに外出して楽しまれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の準備や手配を御家族と連絡を取りながら行っています。	入居前のかかりつけ医が継続され、職員が同行しての受診支援が行われている。ホーム内では医療連携体制による看護師の定期的健康観察や、主治医の往診で生活状況を見てもらっての診察も行われている。受診や診療後の報告も家族にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤していますので、皮膚の状態の変化や自覚的・他覚的症状について報告・連絡・相談し、必要時病院の看護師に連絡を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を作成して情報提供をしており、入院中もご家族との連絡をとり退院の受け入れ準備をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時にご家族との話し合いをして、考える状況と対応、担当医師の方向性の共有についても話をしてホームで出来る範囲をお伝えしています。	重度化や終末期に向けた指針・方針が整備され、同意が得られている。指針にはグループホームとして対応できる最大のケアについて細かく明示している。ターミナルの経験もあり、要望により各機関と連携を密にし、検討・話し合う体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を必ず受ける事にしています。本年度は5月に開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を6月と10月に行っています。地域の方に3名参加していただいています。	スプリンクラー・緊急通報システムの設置、日中・夜間想定避難訓練を継続している。町内に避難訓練の協力要請を行い、3名の方が参加している。各種講習受講の継続、災害時の備蓄についても検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のできることをお願いして、したい事が達成できるようにし否定的な返事はしないようにしています。	職員は、利用者の尊厳を傷つけない言葉遣いや、プライバシーの確保、人格を尊重したケアに努めている。気になる言葉使いや対応についても都度管理者から指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいのか考えを伺ってみたり、二者選択をしてもらったりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の体調や気分に合わせて休憩時間や入浴等を配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容で髪カット後お化粧も楽しまれています。また、日常においても顔の産毛剃りの介助もしています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に台所に立って洗ったり拭いたりする他、収穫した物を一緒におやつとして作っています。また、季節の旬なものをメニューに入れて味わったり、お誕生日には本人の好みのものを提供しています。	各ユニットはそれぞれの献立で職員が調理を行い、利用者は片付けや下準備を手伝っている。利用者の好みを聴いたり、イベントや季節に合わせた献立、外食の機会もあり、家族や地域の方から頂いた食材で食卓を飾る等の工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を個人に合わせ、水分補給として午前10時とおやつ時、夜間に摂取できるようにし、必要に応じて水分チェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして、見守ったり介助したりしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助を要する方についてはチェック表を活用し、排泄のタイミングをつかみ、できるだけトイレでの排泄してもらっています。新規入居の方についても、入居から1ヶ月間は排泄チェック表でパターンを把握しています。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導を積極的に行っている。トイレ排泄を基本に夜間も利用者の習慣に合わせた対応をしている。退院後の身体状況低下改善の取り組みも、積極的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後～朝食時に野菜ジュースや牛乳を飲んで頂き、運動不足にならないよう歩く事に心がけています。車椅子の方でも、足踏みしながら進んでいかれるように声をかけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後の時間帯(13:30~16:00)に1人ずつ入浴ができ、希望の時間に調整しています。また、その日の体調により入浴を希望されない時は、後日に変更しています。	日曜日を除き毎日準備し、週に2回は入浴できるように対応している。家庭風呂では難しい方には1階のデイサービスで特浴対応や、身体状況・天候に合わせて清拭、シャワー浴、足浴の対応もしている。要望に応え楽しみな時間となる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや椅子などでそれぞれうたた寝や昼寝をしています。夜間は19時以降は廊下の照明をフットライトに変更して安眠に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが全ての薬の内容を把握はしていませんが、降圧剤や抗不安薬・睡眠薬・下剤・整腸剤等は認識しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は台所のお手伝い、洗濯物を干したりたんだりされる方、おしゃべりをして歌を唄ってくれる方など入居者様同士で楽しんでます。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て、午前中に散歩に出かけたり親類や知人の協力を得て講演会やドライブに行っています。また、11月には入居者様と職員とで、近くの居酒屋に鶏料理を食べに(お酒も少し呑みに)行っています。	一人ひとりの体調に合わせて、近隣の散歩や行事に出かけるようにしている。行事レク活動の年次計画に添い、団体での花見や紅葉狩りにも出かけている。年初めにはどんど焼きに行ったり、毎日の食材の買い出しと一緒に出かける場面も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳の残高確認を行っていますが、本人の金銭管理能力に応じて、ご家族の同意の上小額の現金を所持していただいています。用途についても、職員で在庫を確認してから購入としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類、知人への電話はスタッフが番号を押す介助をしていつでもかけられるようにしています。手紙の返信も、本人とポストまで行ったり代行投函しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には「人生の先輩の方々」向けに多くは飾り付けしていません。幼稚にならないよう季節に合わせた飾り付けをしています。リビングは南向きに窓がありますので、ブラインドで採光量を調整しています。	2階と3階は、色彩がシックで明るい特色のあるリビングとなっている。ホールには畳のフロアーがあり、職員と座って寛いだり、家庭と同じような洗濯の干場であったり、工夫した利用となっている。壁には利用者が憩える写真や、好きな犬の写真が貼られ、語りのきっかけとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けソファ・二人掛けソファ・リクライニング椅子・腰掛けなどがありますので好きな場所に座って話ができるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具やベッドを用意していただいたり、自宅で飼っていた犬と同じぬいぐるみを居室の入り口に(目印として)用意したりしています。	クローゼットが設置された居室はその人らしい装飾で、使い慣れた寝具・家具を持ち込み、安心して過ごせる空間となっている。家族が面会に来た時に、利用者と語らう居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを充実し掴まりながら自分で歩いてもらったり、トイレや浴室にはコールを設置しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム ユニティー旭神		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「こはく館 ユニット」に同じ
----------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902504&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902504&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(さんご館アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念に変更して、全体会議で周知・掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物へ参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月に地域の3つのグループホームで認知症の勉強会をご家族や地域の方々に開催しています。また、社会福祉協議会や地域包括支援センターとの連携をとり福祉施設について意見交換会を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、入居者様の日常生活の様子や活動状況等を報告し、ご意見を伺っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	旭川市担当者とは、入居状況の問い合わせや事故報告、不明事項の確認など連絡しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については委員会(身体拘束廃止/虐待防止委員会)を設置し、本年度は6月と9月に会議を開催しています。また、マニュアルがありますが内容について周知(回覧)しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても委員会を設置し身体拘束廃止と共に会議を開催しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域開催の権利擁護や成年後見制度の研修会の案内を職員全員に回覧しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本年度は新規利用契約はありません。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族の面会時には会話をもち、ケアについて考えやご意見を伺ってミーティングにつなげています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議を開催し、8月には全体会議を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月、11月に人事考課(面談)を行い勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修としては、新人研修、一年研修、主任研修、管理者研修等を行っています。また、外部研修として研修案内を回覧して参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他グループホームと(学びの会)を設けており、ネットワークでの情報交換を行っています。また、同地域のグループホームと合同の講習会を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年は新規利用者はおりませんが、毎日の健康状態を把握する時に耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者はおりませんが、御家族からの電話や面会時にはお話を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規利用者はおりませんが、精神的・身体的状況をみて介護計画に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	牛乳パック切りや食事の盛り付け、タオル類の洗濯物たたみ等分担していて、お互いの頼まれごとを理解しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子をお伝えし、ご家族の考えを伺って相談しながらケアの方向性を見極めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年通院していた病院の通院送迎介助を行っています。入居者様の御家族や親類のご協力により車椅子の方でも温泉地で1泊されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の方への理解ができない入居者様にはスタッフが間に入ってコミュニケーションのとれるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様、家族との関わりはありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間、食事時間、入浴日など声掛けは行いが本人の希望に応じて案内しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況についてはセンター方式の一部を利用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の一日の過ごし方については毎日の記録の残し、年月の経過と共に身体的状況をセンター方式の「できることできないことシート」におとしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、意思を尊重し家族と話し合いながら3ヵ月毎に計画を見直しています。毎月のミーティングでケアの反応もモニタリングしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を中心にスタッフ間で情報を共有し、ユニット会議で話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴はホーム内の浴室だけでなく、ディサービスの入浴場(準天然温泉)をお借りして温まっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人、家族の希望により自宅のある地域の選挙投票所に行ったり、図書館へ行けるように支援しています。地域で開催される盆踊りや保育園のお遊戯会、餅つきにも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診介助を行っています。また医療連携の病院を確保しており、入居者様の訴えがあったり変化が見られた場合は相談を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので、排便の状態や傷が出来たり体調に変化のあった時は看護師に伝え、家族への連絡や病院受診の手配などを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師により介護添書を作成し情報提供して、御家族と連絡を取りながら面会に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時には看護師から今後の方向性を家族と相談してもらっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加したり、非常時対応マニュアルを用意しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した非難訓練や、車椅子の入居者様の布団を使用して階段を下りる避難方法を行っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの入居者様のプライドを傷つけないように思いやりのある言葉かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、自己選択、自己決定できるように声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にスタッフ側の都合にならないように声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望に合わせて訪問理容を行ったり衣類に汚れがあれば更衣できるよう支援しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を通して食べたい物や食べ易さを聞き、入居者様の能力に合わせてもやしのひげ取りや食事の盛り付けのお手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量、水分チェック表を付けて体重の増減により、食事量の調整を行いバランスの取れるようメニューを考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い仕上げ磨き等の介助を行っています。週二回、義歯の消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツを使用したり、トイレでの排泄が出来る様時間をにて案内をしています。どうしても失禁が気になる方についてはパットを使用すると安心されているので希望を聴きながら調整しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行練習の声掛けを少しでも身体を動かせるようにし、水分量をみたり消化の良い食事を提示しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の生活のリズムで入浴時間は固定化されている方もいますが、入居者様の体調に合わせて週に2回以上入浴できるように案内しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は戸を閉めて休まれており、居室に廊下の光が入らないようダウンライトを消しフットライトにしています。日中のお昼寝の時も南向きの部屋の方はカーテンを閉める配慮もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の説明書を見やすいようにファイルにし変更時にはケース記録に記載し情報を共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒できる方は、毎週日曜日と祝日に20CC程のお酒を提示しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望で図書館への外出や家族との外出ができるように支援しています。11月には近くの居酒屋に職員と出かけて食事をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームで預かるお金の他に、家族の希望もあり本人の管理するおこづかいを持ってもらいスタッフが見守りしながら使用できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じられるように家族に電話したり、書いた手紙を投函できるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに観葉植物を置いたり季節ごとに飾りつけをし、雑誌もいつでも見れるようにマガジンラックを用意しています。車椅子の方が多いのですが、時々ソファに座れるように用意をしています。1日2回の室温・湿度チェックをし換気加湿等をしています。採光はブラインドの向きで調整しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席があることで安心できる入居者様が多い為食事等は決まった席で摂っているが食事以外では入居者様同士が交流できるように席の移動をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様がそれぞれ生活し易いように自宅の家具などを置いたり、好みのカレンダーや写真を貼れるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の入居者様が多い為、移動しやすいように廊下に物はあまり置かないようにしています。手すりに掴まってトイレで排泄できたり、入浴できるように配慮しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ユニティー旭神

作成日：平成 24年 1月 6日

市町村受理日：平成 24年 1月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議活発化の為に、会議の意義や内容を理解して頂けるように、欠席の利用者家族にも報告し情報が共有できる取り組みが望まれる。	運営推進会議に毎回、ご家族や地域住民、職員が参加できる。	ご家族には、毎月の通信発行の際に運営推進会議の議事録を添えて会議内容をお知らせし、会議への参加を輪番制で来て頂くように調整していきます。また、職員の参加を増やして意義を高めていきます。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。